

# 断りの言語行動における配慮表現のフレキシビリティ

——日中の若者における比較を通して——

高 揚（筑波大学大学院生）

## 要 旨

断りは人間関係を脅かすリスクが大きいいため、配慮表現のフレキシビリティが要求される。本研究では、言語的ストラテジーから、同一の依頼に対する断り表現の日中対照を通して考察した結果、日本語はネガティブ・ポライトネスを重視するが、中国語は日本語よりもポジティブ・ポライトネスを重視する。その違いは配慮に対する捉え方が日本語と中国語で異なることから生ずる。

中国語は相手に近づきたい気持ちを強調することを配慮として捉えるため、ポジティブ・ポライトネスを用いる傾向がある。それに対し、日本語は聞き手領域に踏み込んだ発話を回避することを配慮として捉えるため、ネガティブ・ポライトネスを使いやすい。

**キーワード：**断り、配慮表現、フレキシビリティ、日中対照、ポライトネス

## 1. はじめに

誘い、依頼、申し出、提案等相手へある気持ちを起こさせる言語行動の応答として、応諾または拒否の言語行動が要求される。しかし、応諾と拒否は同等の言語行動ではない。依頼に対する承諾は即座に簡単に発話されるのに対し、依頼に対する拒否は複雑な要素を含み、遅れて発話されるのが一般的である。

本稿では、断りの言語行動における複雑な要素を言語的ストラテジーと考え、そこにみる配慮表現のフレキシビリティについて日中対照を行いたい。

## 2. 断りの言語行動

断りは相手の期待や好意を受け入れないことを相手に伝える発話機能を有するため、Brown and Levinson (1987) のフェイス脅かし行為 (face threatening act: 以下 FTA) に該当し、人間関係を損なう恐れがある言語行動となる。断りにより生じた相手との摩擦を解消するために、言い訳をすることや、代案を提示すること、謝罪など「関係修復行為」がしばしば行われている。さらに、言語形式の観点から見れば、断りを最後まで言い切らない形で、言いさし文により間接的に断ることも配慮表現のフレキシビリティの一種であると言える。

なお、「配慮はどの言語文化においても働くものであるが、その配慮をどのように表現するかは、それぞれの言語や文化によって異なる」(藤原他 2009:86) ため、異なる社会背景や文化の中で育てられる日本人と中国人は断る際に、好まれる丁寧さや配慮表現に差異

があると思われる。そこで、本研究では、FTA を緩和するための言語的ストラテジーから、日中の断りの言語行動における配慮表現のフレキシビリティについて比較をし、その差異の原因について検討する。

### 3. 研究方法

#### 3.1. データの収集

本研究では、親しい友人<sup>(1)</sup>に「週末に宿舍の引越しの手伝いを頼まれて断る」という場面を設定し、2015 年の 5 月から 8 月にかけて、日本の神奈川県にある A 大学の大学生 20 人（男：女＝5：15；年齢：平均 20.3 歳）と中国の山東省にある B 大学の大学生 20 人（男：女＝7：13；年齢：平均 21.7 歳）を対象に、日中両国語版の談話完成テスト(Discourse Completion Test:以下 DCT)を実施した。また、調査協力者の内面に切り込むためには、フォローアップ・インタビューを行った。

#### 3.2. 分析方法

Beebe 他（1990）は断り表現を分析する単位として意味公式（semantic formula）を立てて、断り表現は意味公式の連鎖体として分析できると言っている。その後も数多くの研究者はそれを参考にし、断り表現の分析を行った（藤森 1994、伊藤 2004、蒙 2010、李 2013）。

李（2013）は、Beebe 他（1990）と伊藤（2004）の意味公式の分類を修正、補足して断りの日中対照研究を行った。しかし、今回収集したデータを分析する中で、李（2013）の分類のみでは捉えきれない発話があったため、独自に発話機能を追加<sup>(2)</sup>し、表 1 に提示した（表の中の例は、今回収集したデータから抽出したものである）。

表 1 意味公式の分類

意味公式	意味機能	日本語の例	中国語の例
{結論}	直接的で明確な断り	パスで;いけない; 無理そう;手伝えないんだ	不能去帮你了;恐怕不能帮你忙啦;去不了;不行耶;没办法帮你搬家了
{理由}	相手の意向に添えない旨の説明	バイトだわ;その日忙しいから;今週末はちょっと用事があるから;その日は予定があるから	周末我家里有点事;我这周末有事、实在抽不开身;周末我已经有别的安排了、很重要;周末我恰好有个重要活动需参加
{詫び}	相手の意向に添えないことを負い目に感じている旨の表明	ごめん;ごめんなさい;ごめんね	对不起;不好意思;抱歉啊;实在抱歉;真不好意思
{代案}	自分から働きかける内容の代わりの案	∅ <sup>(3)</sup>	要不我替你联系其他人;我帮你找别同学吧
	自分は回避する内容の代わりの案	他の子にお願いしてほしい	∅
{将来約束}	積極的な約束	∅	下次有什么需要帮助一定去;回头你收拾新家的时候一定去帮忙哈
	消極的な約束	∅	改天补偿你

{共感}	相手の意向に添いたい心情の表明	ø	我真的很想帮你
{信念}	行動の基礎となる態度の表明		老朋友搬家我也不太好缺席， 对吧
{条件}	承諾する可能性を述べること、断りの保留。条件によって、自分ではできる場合とできない場合の両方の可能性があり、相手の意向にできるだけ添いたいという「誠意」を伝える	他の日なら大丈夫 だと思ふ;それ以降の〇〇日なら大丈夫だけど... どう?	如果忙完、我尽量过去帮你; 这样吧、有时间我一定去;下课后我立马赶过去、好吗? 开完会我就过去;要不我这几天帮你
{非難}	不満な気持ちの表明	ø	怎么不早说
{その他}	上記に該当しないもの	ø	不然晚上我给你带过去好的?

表1の意味公式の分類を踏まえ、以下の手順で分析を行った。

(1)DCT で得られた断り発話を意味公式の機能別に分割し、断りに見られる言語的ストラテジーを意味公式という単位を用いて分析した。

(2) {詫び}、{理由}と {結論} の言語的ストラテジーの使用状況と断りの【終結部】<sup>(4)</sup>の言語的ストラテジーの使用状況から、日中の断りの言語行動における配慮表現のフレキシビリティについて比較をした。

(3) 両言語において配慮表現のフレキシビリティに相違が見られるとしたら、それはどのような要因で生起しているのか。

## 4. 結果と考察

### 4.1. {詫び}、{理由} と {結論} の言語的ストラテジーの使用状況

尾崎 (2006:91) は、依頼と勧めに対する日本人の断りの分析の中で、「典型的には、『すみませんが、○○なので△△できません』のように、『詫び』と『理由説明』と『断りの述部』の三つの要素が現れることが期待される」と指摘している。これらは、{詫び}、{理由}と {結論}の三つの意味公式に相当する。なお、今回の調査で得られた日本語と中国語がその三つの言語的ストラテジーの使用頻度 (実数) と割合 (%) を表2にまとめた。

表2 {詫び} {理由} {結論}の意味公式の使用頻度 (実数) と割合 (%)

	{詫び}	{理由}	{結論}
日本語	13 (65%)	18 (90%)	11 (55%)
中国語	13 (65%)	20 (100%)	6 (30%)

表2からわかるように、日中ともに {詫び} と {理由} を高頻度で述べているのに対し、{結論} の使用頻度においては数値の開きがある。{結論} においてははっきりと断りを表明した割合は、日本語では約半数 (55%) であったのに対し、中国語は3割 (30%) であった。この結果から、親しい同輩とのコミュニケーションにおいて、中国語は日本語よりも {結論} 回避する傾向があると言える。『直接的な断り』を用いたのが半数ぐらいいることから、日本人は断るとき、はっきり相手に自分の意向を伝える傾向があることを示している。親しい同輩にも気軽に断る傾向も見られる」という点は先行研究でも指摘されており (加納・梅 2003:37)、その傾向は、本データにも認められる。

その原因について、文化庁により実施された「国語に関する世論調査」<sup>(5)</sup>（平成 28 年度）の結果から示唆が得られると考える。世論調査の結果によると、相手との伝え合いで重視していることについて、「(a) 言葉にして表して伝え合うこと」が約 5 割、20 年度調査から 28 年度調査に掛けて 12 ポイント増加している。一方、「(b) 察し合って心を通わせること」が約 3 割、20 年度調査から 28 年度調査に掛けて 3 ポイント減少している。つまり、過去よりも日本人は「察し合って心を通わせること」より「言葉にして表して伝え合うこと」を重視しているとは言え、今回 DCT 調査の結果でもその傾向が支持された。

また、{理由}の言語表現においては、程度副詞の使用が観察された。中国語では断る際に、(1)の傍線部で示したように、程度性の高い副詞“很”、“太”が使用されている。

(1) a. 周末已经有很<sup>(6)</sup>多安排了, 估计没有时间去帮你了。 CNS05F<sup>(7)</sup>

(筆者訳: 週末とてもたくさんの用事があって、手伝う時間はないかもしれないよ。)

b. 我需要考等级证书, 时间太紧张, 不好意思! CNS11M

(筆者訳: 試験のため、時間はとてもきついから、ごめん!)

山岡他 (2018:165) では、ポライトネス原理のうち、負担と利益にかかわる気配りの原則と寛大性の原則には、反比例的な原理である「配慮表現の原理」(表 3 参照)が存在することを指摘している。

表 3 負担と利益に関わる配慮表現の原理

	① ポライトネスの原理	② 配慮表現の原理
(A) 気配りの原則	(a) 他者の負担を最小限にせよ	(a) 他者の負担が大きいと述べよ
	(b) 他者の利益を最大限にせよ	(b) 他者の利益が小さいと述べよ
(B) 寛大性の原則	(a) 自己の利益を最小限にせよ	(a) 自己の利益が大きいと述べよ
	(b) 自己の負担を最大限にせよ	(b) 自己の負担が小さいと述べよ

しかし、(1)における中国語の理由の述べ方は、配慮表現の原理 (B②-b)「自己の負担が小さいと述べよ」の原則に反する。つまり、(1)においては、中国語は“周末已经很多安排了”、“时间太紧张”の部分で、高い程度を表す副詞を用いて「自己の負担が大きい」ことを強調している。それは、断る際自分がいかに大変な状況にあるかを説明し、断らざるを得ない客観的な理由を相手に伝えることによって配慮を示すという中国人の配慮心理が働いていると考えられる。

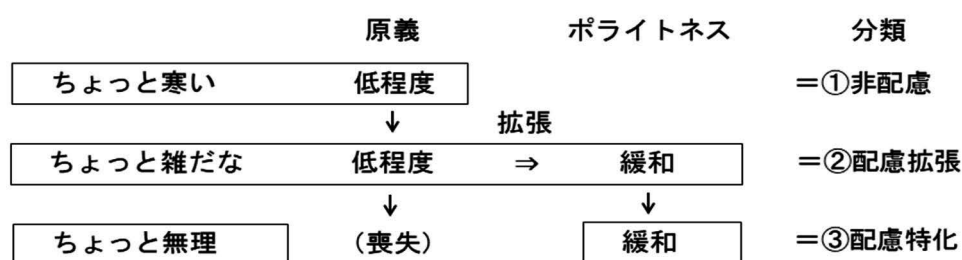
一方、副詞の「ちょっと」は日本語が好まれる表現としてよく知られる。断り表現の中においても、一定程度以上に慣習化されて使用されている。例えば、

(2) a. 今週末はちょっと用事があるから行けない。ごめんね! JNS05F

b. 今週末はちょっと先約があって…。それ以降の○○日なら大丈夫だけど…どう?

JNS20F

山岡他 (2010) によると、日本語の「ちょっと」は本来持つ低い程度の意味以外に、異なる二次的用法として対人配慮を表す用法があり、それは、原義が完全に喪失して配慮機能に慣習化した用法ということである。その副詞の「ちょっと」は配慮表現として慣習化されるプロセスを図で示すと次のようになる。



(山岡他 2018:157)

「ちよつと寒い」における「ちよつと」は、低程度の程度副詞の本来の語義として使われる。そして、「ちよつと雑だな」における「ちよつと」は、本来の低程度の意味を有したまま緩和というポライトネス機能に拡張し、相手のネガティブ・フェイス<sup>(8)</sup>を脅かす《非難》の発話状況で FTA を緩和するために用いられる。こうした緩和機能だけが残って慣習化し、原義であった低程度の意味は完全に喪失しており、配慮機能に特化してある種の定型表現となった用法が、《断り》の発話状況で「ちよつと無理」における「ちよつと」である。つまり、(2) の「ちよつと用事がある」、「ちよつと先約があつて…」における「ちよつと」は、低程度の原義が完全に喪失し、断る際に、相手との摩擦を緩和するため且つ一定程度以上に慣習化された配慮表現として使われるわけである。

#### 4.2. 断りの【終結部】の言語的ストラテジーの使用状況

【終結部】について伊藤（2010）では、会話をスムーズに続けるために談話をどう終結させるかが重要であり、談話の終結部に十分な配慮が必要であると指摘している。【終結部】は対人関係を構築・維持するための重要な部分であると考えられるため、日中の断り表現の【終結部】に使われている意味公式の種類（図1と図2に示す）と使用頻度（高い順で表4にまとめる）を分析した。

表4 【終結部】に使われている意味公式の使用頻度（実数）と割合（％）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位
日本語	{理由} 7(35%)	{結論} 6(30%)	{詫び} 4(20%)	{条件} 2(10%)	{代案} 1(5%)	∅	∅
中国語	{結論} 4(20%)	{将来約束}、{条件}、{詫び} 3(15%)			{代案}、{理由} 2(10%)		{非難}、{信念}、{その他} 1(5%)

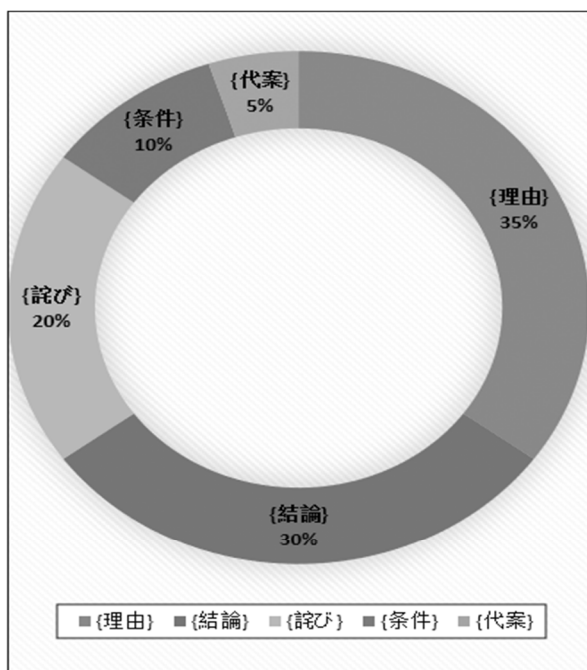


図1 日本語の断り表現の【終了部】の意味公式の種類と使用割合

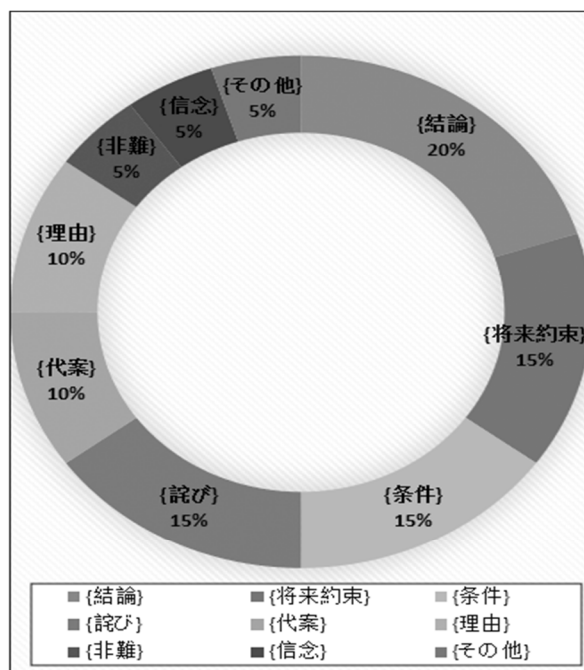


図2 中国語の断り表現の【終了部】の意味公式の種類と使用割合

表4からわかるように、中国語は日本語より使用する言語的ストラテジーに多様性がある。また、図1と図2に示した通り、日本語の断り表現の【終結部】においては、{理由}や{結論}、{詫び}の意味公式が大きな位置を占めているが、それらのストラテジーで断りの発話を終えたのは85%であったのに対し、中国語においては45%であった。その他に、中国語では{将来約束}、{条件}と{代案}等の意味公式によって断りの話を締めくくったのは合計で55%であった。

以上の結果から、中国語は日本語よりも、多様な言語的ストラテジーを使用することによって配慮を行っていることがわかる。{将来約束}、{条件}や{代案}等の意味公式を使用することは、断りがもたらす相手のフェイスへの侵害を軽減するのみならず、積極的に働きかけるという熱意を示すことに重点が置かれている中国語の対人関係の有様として、ポジティブ・ポライトネスを示している姿勢が見られる。それに対し、日本語の断り表現の【終結部】には、主に{理由}、{結論}と{詫び}の三つの意味公式に集中していることが明らかとなった。積極的に相手との関係を一層親密にしたいという姿勢が見られず、むしろ相手との距離を保持するという日本語の対人関係の有様として、ネガティブ・ポライトネスの傾向が強いと言える。

{代案}や{将来約束}等のストラテジーの不使用について、5人の日本人の調査協力者に対してフォローアップ・インタビューを行った結果、次のとおりであった。

「日本語の断りについて、わたしたちは積極的な提案までは行わないことがほとんどである。頼まれたことや、誘われたことに対して、自分から代案を提案するのは、かえって相手に干渉しすぎて失礼であるという感覚をもつためだ」 JNS05F

「日本語の断りに関しては、双方がネガティブにもポジティブにもならないフラットな方法が望ましいと考えられる」 JNS09M

「断ることによる迷惑も代案等で相手の選択・事情に踏み込むことの迷惑も避けようとすることで当たり障りのない淡白な表現になるのは確かだと思う」 JNS15F

「日本人の断りは、ある種の定型文で済ませた方がお互いに受け入れやすいのではないかということである。不用意に相手を気遣うようなことはかえってリスク/無責任であるように感じる」 JNS18F

「相手の都合に合わない提案をしてしまったら気まずさに加え、相手に気を使わせてしまったという罪悪感も少しあるからだ考える」 JNS19M

フォローアップ・インタビューの結果から、元来日中間に「配慮」についての考え方が違うため、相反している配慮のメカニズムが働いていることがわかった。つまり、{代案}や{条件}等を積極的に提供することは相手への心配りと認識し、相手のポジティブ・フェイスへの配慮として中国語は受け止める。それに対し、「聞き手の縄張りに踏み込まないこと」<sup>(9)</sup>は、相手のネガティブ・フェイスへの配慮として日本語は受け止めるため、{代案}あるいは{条件}の提供等を回避し、当り障りのない定型文を使って断る。

#### 4.3. {将来約束}と{代案}の言語的ストラテジーの使用状況

##### 4.3.1. {将来約束}の言語的ストラテジーの使用状況

中国語は断った後、補償として{将来約束}のストラテジーを使用する。例えば、

(3) a. 对不起，我周末姥姥要来，我好久没和姥姥一起吃饭了，实在抱歉，

{詫び}

{理由}

{詫び}

下次有什么需要帮助一定去。

CNS01M

{将来約束}

(筆者訳：ごめん、週末祖母が来るんだ。祖母と一緒にご飯を食べるのは久しぶりだから、ホントにごめん。今度何かあったら絶対手伝いに行くよ。)

b. 这周末我一个老同学要来，恐怕不能帮你忙啦，

{理由}

{結論}

回头你收拾新家的时候一定去帮忙哈。

CNS03M

{将来約束}

(筆者訳：今週末旧友が来るから、手伝いに行けないかもしれないと思う。あと家を片付けるとき絶対手伝いに行くよ。)

B&L (1987) のポライトネス理論においては、15 種類のポジティブ・ポライトネス・ストラテジー (positive politeness strategy: 以下 PPS) を挙げている。その中で、「提供せよ、約束せよ」は一つの PPS として挙げられ、「何らかの FTA の潜在的脅威を和らげるため、S は H と協力関係を強調する別の方法を選ぶこともある(田中他訳 2011:172)」としている。

(3) の下線部の“下次有什么需要帮助一定去”、“回头你收拾新家的时候一定去帮忙哈”のような将来約束には、断りがもたらすフェイスへの侵害を補償するとともに、相手との人間関係を積極的に維持・発展したいという配慮が窺われる。それに、その言語表現に“一定”(「絶対/必ず」)という副詞の使用により、協力したいという約束の決意を強調し、断るための決まり文句あるいは社交辞令ではなく、積極的に相手を手伝おうとする意志の表明であると見なすことができる。それに対し、今回の調査では、日本語では{将来約束}の意味公式は一回も使用していなかった。

また、「贈り物（品物、共感、理解、協力）を聴者に贈与せよ」も一つの PPS として挙げられ、(4) における“不然晚上我给你带过去好吃的”のような「相手に物を奢る」という言語的ストラテジーはそれに当てはまるとされる。

(4) 我这周末有事，不然晚上我给你带过去好吃的？

CNS16F

{理由}

{その他}

(筆者訳：今週末は用事があるから、なんなら夜美味しいものでも持ってそっちに行くけど。)

蒙 (2010:15) では、「中国人は相手との親しい関係を維持するため、断りの補償として『相手に物を奢る』というストラテジーを使用することが分かった」と述べている。(5)、(6) は蒙 (2010) の調査で得られた文例である。

<仲のいい友達に英訳のチェックを頼まれて断る場合>

(5) 下次见面我请你吃冰棍做弥补啊。

【CCC14】【女:25 歳】

(筆者訳：その代わりに、今度会う時アイスクャンデーを奢るよ。)

<親しい上司に休日出勤を頼まれて断る場合>

(6) 我今天晚上努力一下，把事情争取今天做完，明天的时间请您去喝酒，

怎么样？

【CCB33】【男:24 歳】

(筆者訳：今晚ちょっと努力して今日中に全部終わらせようとしています。代わりに、明日お酒を奢ります。いかがでしょうか。)

“在中国，要想关系好，吃吃请请必不可少。”（「中国で、よい人間関係を作るならば、奢ることは決して欠かせないものである」という話はよく知られている。中国人は断った後、お詫びの気持ちを込めて補償として「相手に物を奢る」という申し出の言語的ストラテジーを使用することによって配慮を表す意識がある。それは、今回の断りによりフェイスへの侵害の補償のみではなく、今後相手との人間関係をさらに発展しようという配慮が一層重要視されるわけである。一方、「日本人にとって、話題と関係ないことで補償をする（奢るとか）は失礼に当たる気がします」（JNS15F）というフォローアップ・インタビューの結果から、断る際に中国人が好意で使用している「相手に物を奢る」というストラテジーは、かえって日本人に許容されないリスクがあるということが予想できる。

#### 4.3.2. {代案} の言語的ストラテジーの使用状況

(7) ごめん、今週末は予定があるから、他の子にお願いしてほしい。

JNS12F

{詫び}

{理由}

{代案}

(8) a. 真不好意思，周末我恰好有个重要活动需参加，要不我替你联系其他人？ CNS04M

{詫び}

{理由}

{代案}

(筆者訳：ホントにごめん。週末はあいにく大事な活動に参加しなければならないから、代わりに私が他の人に連絡するのはどう？)

b. 不好意思啊，我有别的事了，我帮你问问其他朋友吧。

CNS18F

{詫び}

{理由}

{代案}

(筆者訳：ごめんね、他の用事があるから、代わりに私が他の友達に聞くのはどう。)

{代案} の意味内容から見れば、中国語では依頼事を受けた側が自分自身の力で依頼内容を実現できない場合、自分自身の「関係（グワンシー）」にさらに依頼していき、面子（メンツ）にかけて実現していく（沖他 2018）。“要不我替你联系其他人？” “我帮你问问其他朋友吧。” のように、PPS の「話者は聴者の欲求がわかっていて、そして気遣っていると述べよ、もしくは、それを前提とせよ」に基づいて、最大限にポライトネスを表現して



いる。一方で、日本社会では、相手からの依頼を実現するのは、受けた当人までであることが多く、自分ができないことをさらに他者に頼んで実現させる場合のほうが少ない（沖他 2018）。「他の子にお願いしてほしい」から、相手の意志を干渉しないというネガティブ・ポライトネス・ストラテジー（negative politeness strategy:以下 NPS）を使用していることが分かった。

また、{代案}の表現形式から見れば、日本語の「他の子にお願いしてほしい」における「～ほしい」は、相手の意志と関わらず、自分の願望を表出する形である。中国語の“要不我替你联系其他人？”における“要不～？”と“我帮你问问其他朋吧。”における“～吧。”は、相手がこの申し出を受けるかどうか、選択の余地を与える表現で、相手の負担を軽減する効果がある丁寧な配慮に当たり、「直接表現を避ける」ネガティブ・ポライトネスである。つまり、{代案}の表現形式から言えば、中国語は相手の領域を侵害しないという NPS の[<相手に対する負担を最小限にせよ>(Leech 1983)]に基づいて、最大限にポライトネスを表現している。

## 5. まとめ

本研究では、FTA の発話機能を有する断りの言語行動を取り上げ、配慮表現のフレキシビリティの観点から、若者の断りの言語的ストラテジーについて日中対照をした。

まず、日中ともに{詫び}、{理由}と{結論}を使用しているが、中国語は日本語よりも直接的な断りを回避する傾向がある。また、断りの{理由}を説明する際に、中国語母語話者は「自己の負担が大きい」配慮の原理を援用し、程度性の高い副詞“很”、“太”を使用して自分がいかに大変な状況にあるかを相手に伝えることによって配慮を示している。一方、日本語母語話者は低程度の原義が完全に喪失し、一定程度以上に慣習化された配慮表現として副詞「ちょっと」を使用して理由説明をしている。

次に、断りの【終結部】においては、中国語母語話者は{将来約束}、{条件}や{代案}等多様な意味公式を使うのに対し、日本語母語話者は{理由}、{結論}と{詫び}の三つの意味公式のみで断りの発話を済ませる。なお、その言語表現においては、中国語母語話者は“一定”という副詞を使用し、相手を助けたいという気持ちを強調することによって積極的な配慮を示している一方で、“要不～？”、“～吧。”という疑問形で、相手の意向を尋ねながら代案を提供し、それを引き受けるか否かという決定権を相手に委ねるという消極的な配慮も観察された。

以上から、断りの言語行動における配慮のフレキシビリティは文化によって大きな差異があり、日中間に相反している配慮のメカニズムが働いていることがわかった。相手との関係を一層親密にしたいという気持ちを強調することは中国語にとっては配慮であり、そのためポジティブ・ポライトネスを好む傾向がある。一方、自分からの{代案}等は相手の迷惑になるか否かを考慮し、相手の領域へ深く踏み込まず、一定の距離を保つことは日本語にとって配慮であるため、定型文やネガティブ・ポライトネスを好む傾向がある。

中国語母語話者と日本語母語話者による異文化間コミュニケーションでは、お互いに断りの言語行動や配慮の示し方の相違をよく理解し、それに注意を払いつつ円滑なコミュニケーションを図っていくことが期待される。今後は、調査人数を増やし、また、実際の談話データを加え、依頼側と断る側の相互行為のやりとりにおける配慮表現のフレキシビリティについて日中対照しながら考察していきたい。

## 注

- (1) 依頼と断りのやりとりは親しい間柄で起こりやすいため、今回の調査では人間関係を親しい友人に設定する。また、性別が会話に影響を与える可能性が高いと考え、調査はすべて同性同士と設定した。
- (2) これは{信念}、{非難}、{その他}である。
- (3)  $\varnothing$ ：空集合＝該当なしを表す。
- (4) 本稿ではひとまとまりの断り発話の最後に使われる意味公式を【終結部】とする。
- (5) 文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起することを調査目的とする。
- (6) 下線は筆者によるものであり、本稿で特に着目した部分である。以下同様。
- (7) CNS (Chinese native speaker)は中国語母語話者の略称であり、JNS(Japanese native speaker)は日本語母語話者の略称である。また F(Female)は女を指し、M (Male)は男を指す。
- (8) 一般的にネガティブ・ポライトネスは、相手の領域を侵害しないようにする配慮、ポジティブ・ポライトネスは相手に積極的な親しさを示す、あるいは相手との距離を近づけようとする配慮という意味で使われている。
- (9) 姫野 (2004、2016) では、「話し手の決定権・意志をなるべく表出しないこと」、「聞き手の縄張りに踏み込まないこと」、「自分を聞き手と対等な関係と位置付けないこと」等を配慮表現の原理として挙げている。

## 参考文献

- 伊藤恵美子 (2004)『マレー語母語話者のポライトネスの諸相—勧誘・依頼行為に対する返答を中心に滞日期間の観点から』名古屋大学博士論文
- (2010)「依頼場面に見られる断り表現の特徴—日本語・ジャワ語・インドネシア語・マレーシア語・タイ語の比較」『留学生教育』15、留学生教育学会、pp. 35-44
- 沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二 (2018)「依頼談話の発想と表現—異文化接触問題の解決をめざした日韓中対照談話論」『社会言語科学』21(1)、社会言語科学学会、pp. 80-95
- 尾崎喜光 (2006)「依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現」『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
- 加納陸人・梅曉蓮 (2003)「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについての考察—断り表現を中心に」『言語と文化』15、文教大学大学院言語文化研究科附属言語文化研究所、pp. 19-41
- 姫野伴子 (2004)「日本語教育と配慮表現 (連載) 配慮表現からみた日本語⑫」『日本語』17(3)、アルク出版
- (2016)「配慮表現の指導」『日本語教育の研究 (日本学研究叢書第9巻)』外語教学与研究出版社
- 藤原安佐・阿部仁美・大井裕子・椿原博子・吉田則子 (2009)「日本語教育における配慮に関わる表現の指導」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』108、北海道大学大学院教育学研究院、pp. 85-98
- 藤森弘子 (1994)「日本語学習者に見られるプラグマティック・トランスファー—『断り』行為の場合」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』1、名古屋学院大学留学生別科、pp. 1-19
- ポリ・ザトラウスキー (1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版
- 蒙韞 (2010)「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの一考察—日本人会社員と中国人会社員の比較を通して—」『異文化コミュニケーション研究』22、神田外語大学、pp. 1-28

- 山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現 日本語語用論入門』明治書院
- （2018）『新版 日本語語用論入門 コミュニケーション理論から見た日本語』明治書院
- 李海燕(2013)『「断り」表現の日中対照研究』東北大学大学院国際文化研究科博士学位論文
- Beebe, Leslie M., T. Takahashi and R. Uliss－Weltz (1990) Pragmatic transfer in ESL Refusals. In R. Scarcella, E. Anderson and S. Krashen (eds.) *Developing communicative competence in a second language*, New York : Newbury House.
- Brown, P. and Levinson, S. (1987) *Politeness : Some Universals in Language Usage*. Cambridge : Cambridge University Press. [田中典子(監訳)齊藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子(訳)(2011)『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』研究社]
- Leech, G (1983) *Principles of Pragmatics*. University of California : Longman[池上嘉彦・河上誓作(訳)(1987)『語用論』紀伊國屋書店]
- Levinson, Stephen C (1983) *Pragmatics*. Cambridge : Cambridge University Press. [安井稔・奥田夏(訳)(2011)『英語語用論』研究社]
- 平成 28 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要 文化庁  
 <[http://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/2017092102.html](http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/2017092102.html)>  
 (2019 年 2 月 21 日取得)

(高揚、筑波大学大学院博士後期課程、koyo6320@gmail.com)